



## 『 23 才、奇蹟の健康寿命を全うした 愛するダイちゃんへ 』

1969 年 5 月、電話を、勝手に生活者発信型双方向メディアとした日本初ニュー  
ビジネスベンチャーとして名乗りを上げた。そんな創業の或る日、友人から払い  
下げて貰った白のフォルクスワーゲンに乗って、営業に向かっていた時、通りが  
かった森の中に小さなダンボールに捨てられていたその日生まれたばかりの血ま  
みれの子猫をみつけた。

驚いて犬猫病院に飛び込んだ。医者は一瞥しただけで「一時間もたない、処  
分しといてやるから置いてきな！」と。絶句！「まだミルクも飲めないから連れ  
て帰ってもムダ！」

これが医者 of 言う事か！私は仕事そっちのけであちこちでミルク、コットン、  
スポイトなど買い漁って会社で子猫の命蘇生と格闘した。一刻を争う仕事だった。

スポイトでも脱脂綿でも子猫の口には一滴も入らない。医者 of 嘲るような声が聞こえる。思い余った私は自分の口にミルクを含み、口をすぼめたり舌を細めたり必死の形相でエンピツのキャップより小さな唇にミルクを注ぎこもうともがいた。

疲れ果て、口に含んだまま夜中何度も眠り込んだ。夜明け頃、唇にかすかな気配を感じて目を醒ますと、何とミルクの涎をなめようとする小さな舌だった。

「オマエ！生きてたのね！すごいじゃない！」

苦難の時代に産声をあげたダイヤル・サービス株の双子の妹として、ダイちゃん、と名付けて育てることにした。

創業の日々、何があっても絶対に泣かない！と固く誓ってはいたものの、国からはさまざまな法・規制違反でお叱りを受け、すべて料金撤収は厳禁とされる中、精魂尽きて深夜に帰宅し、ドサリッとソファに身を沈めた瞬間、意図せずに何か頬を伝わり落ちる。どこからともなくダイちゃんが飛んで来て膝に駆け上がり、あの天使のホッペのようなすべすべの肉球で、滴をやさしく拭き取ってくれる。「ママ、ダイジョウブ、ホラ、ダイちゃんがついているよ」って！

医者からは 1 時間で死ぬと言われたダイちゃん。何と、一度の病気もケガもなく、母に似て（笑）美女のまんまで何と 23 年もそばに居てくれた。そして何と獣医師会から表彰まで！猫との暮らしは今も 50 年、育てた子らは 20 匹近い。その

第一号ダイちゃんが、ベンチャー企業の創業と時を合わせて私の人生に登場し、私にすばらしい学びと喜びを与えてくれた。

猫にも言葉や心が、時として人間以上に伝わることを教わった。

今、時代や業種や地域を越えてベンチャーの母、国境なきお母さんとして中国、韓国に多くのすばらしい息子・娘に恵まれていらっしゃるのも、もしかして愛してやまないダイちゃんのおかげかもしれない。ダイちゃん、ママは泣いてなんかないよ。試練の時こそ、今でも大声で“ありがとう”と叫んでいるからね。おまえのこと、一生忘れない、死ぬまで愛しているからね。ダイちゃん、ありがとう！



アビシニアンの子猫を一匹一匹くわえられて目の前に登場した6匹の赤ちゃんたち。言葉では言い表せない感動！



ダイヤル・サービス(株)のダイちゃん

ダイヤル・サービス株式会社  
代表取締役社長 今野由梨

今野由梨